

福島第二原子力発電所 1号炉における使用済燃料プールの冷却再開について

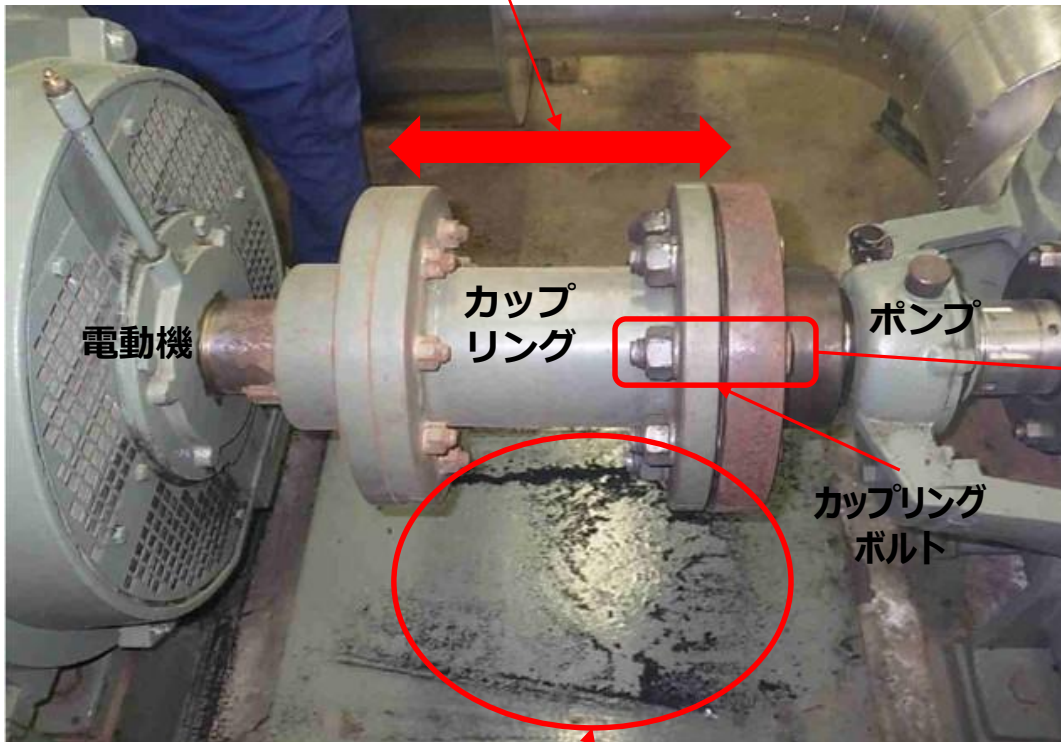
- 7月8日、1号炉使用済燃料プール冷却系の機器（以下、ポンプ①）について、振動診断を行ったところ、振動値が通常値に比べて高い傾向にあることを確認しました。
- 原因調査のため、同日午後7時18分、使用済燃料プール冷却機能の停止を判断し、午後9時9分に停止しました。
- 予備の使用済燃料プール冷却系の機器（以下、ポンプ②）につきましては、現在点検のため停止しており、7月13日終了予定ですが、準備が整い次第、運転を再開することとします。
- なお、冷却機能が停止した時点の使用済燃料プール水の温度は28.0℃であり、冷却系停止時の水温上昇率は0.2℃/hであることから、保安規定の施設運用上の基準（65℃）までは約185時間(約7.5日間)の余裕があります。
- 本件による外部への放射能の影響はありません。

（7月9日お知らせ済み）

- 7月10日、ポンプ①について、原因を調査したところ、軸を繋げるカップリングの構成部品であるゴム製のブッシュとボルトとの間の摩耗が進行したことによりポンプ①とモーターの軸芯がずれたため、振動値が上昇したものと推定しました。
- その後、ポンプ①のブッシュおよびボルトを交換するとともに、軸芯の調整を実施し、試運転をした結果、振動値が通常値になり健全性を確認できたため、7月11日午後10時49分、使用済燃料プールの冷却を再開しました。
- なお、7月13日まで点検停止中のポンプ②の起動を前倒しする方向で作業を実施していましたが、試運転の準備過程でポンプ②軸封部からの水漏れを確認したことからシール材の塗り直しを実施しました。今後、水漏れがないことを確認します。
- 引き続き安全確保を最優先にプラントの安定維持に取り組んでまいります。

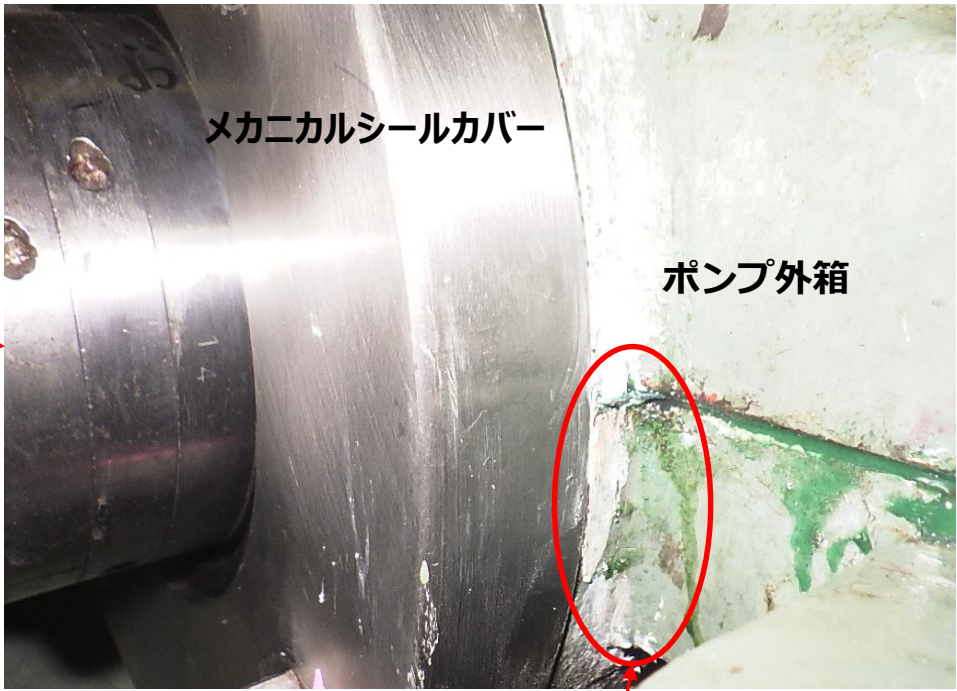
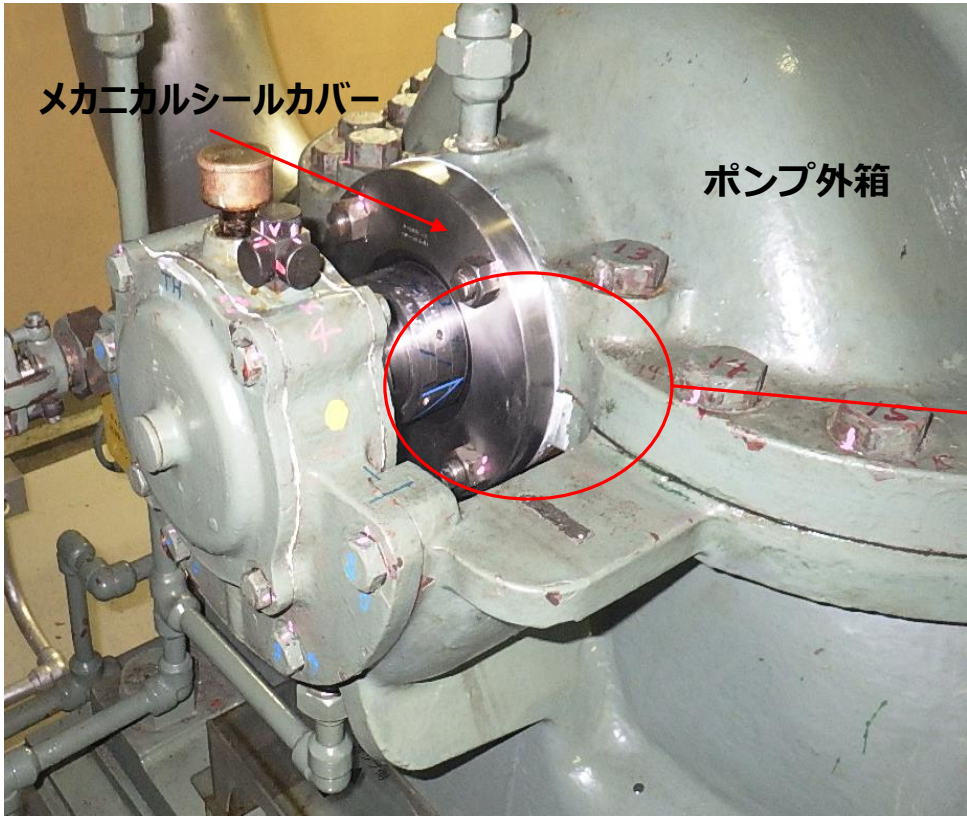
◆点検停止している当該機器の摩耗箇所（ポンプ①）

ブッシュが軸方向に動いたため軸方向の
振動上昇が顕著であった



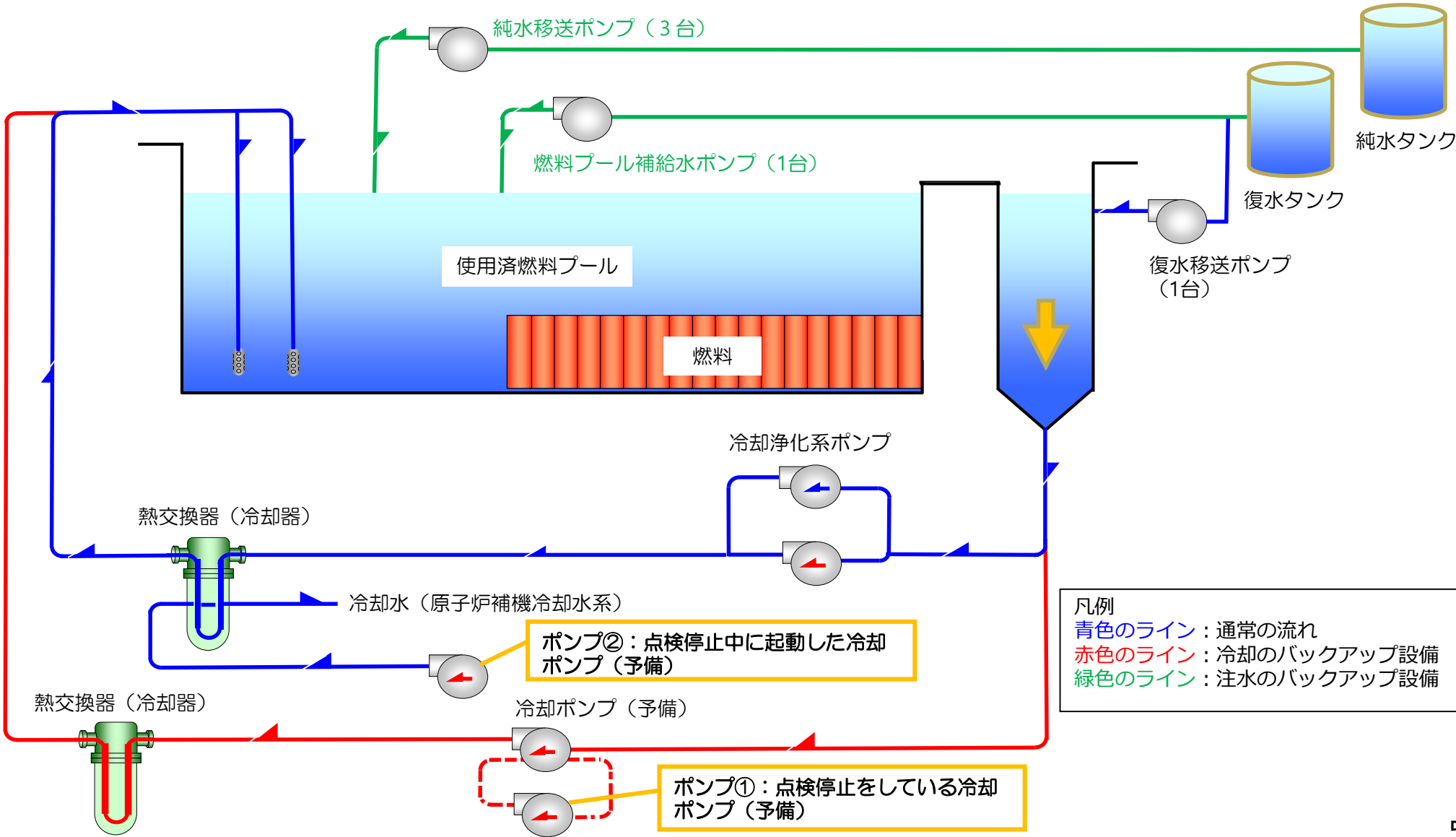
黒い粉は摩耗したブッシュのゴム成分と
ボルトの鍍成分が飛散したもの

◆点検停止中に起動した予備ポンプの水漏れ箇所（ポンプ②）



水漏れを確認した箇所

◆福島第二原子力発電所 1号炉使用済燃料プール概略図



凡例
 青色のライン：通常の流れ
 赤色のライン：冷却のバックアップ設備
 緑色のライン：注水のバックアップ設備